

調査の概要

1 調査の目的

(1) 目的

本調査は、全国健康保険協会管掌健康保険（以下「協会けんぽ」という。）、組合管掌健康保険（以下「組合健保」という。）、共済組合等の保険（以下「共済等」という。）、国民健康保険（以下「国保」という。）及び後期高齢者医療制度（以下「後期高齢者医療」という。）における医療の給付の受給者にかかる診療行為の内容、傷病の状況、調剤行為の内容及び薬剤の使用状況等を明らかにし、医療保険行政に必要な基礎資料を得ることを目的とした一般統計調査である。

(2) 沿革

本調査の前身である「社会医療調査」は、昭和 30 年から指定統計第 79 号として、政府管掌健康保険を対象に、傷病別調査、診療行為別調査が実施され、昭和 49 年には、診療行為を主体とした「社会医療診療行為別調査」に改称した。昭和 53 年からは、傷病も加えた調査とし、さらに昭和 58 年から老人保健法が施行されたことに伴い「老人医療」を区分し、昭和 61 年から国保、平成 11 年から組合健保、平成 23 年から共済等も調査の対象とした。

また、平成 6 年からは、診療行為における薬剤の使用状況を把握し、平成 13 年からは、院外処方の進展に伴い保険薬局も調査の対象とした。

平成 15 年には「診断群分類による包括評価制度」が導入され、平成 20 年から高齢者の医療の確保に関する法律の施行に伴い、「老人医療」に替えて「後期医療」を区分した。（平成 20 年では、「長寿医療」と表章した。）

平成 23 年からは、レセプト情報・特定健診等情報データベース（以下「NDB」という。）の活用を開始した。

2 調査の対象

全国の保険医療機関及び保険薬局から社会保険診療報酬支払基金支部（以下「支払基金支部」という。）及び国民健康保険団体連合会（以下「国保連合会」という。）に提出され、審査決定された医療保険制度の診療報酬明細書及び調剤報酬明細書を調査の対象とした。

なお、電子化された診療報酬明細書及び調剤報酬明細書についてはNDBに蓄積されたものを利用した。

3 調査の客体及び系統

- (1) 医科病院、医科診療所、歯科病院及び保険薬局は、NDBに蓄積されている全ての診療報酬明細書及び調剤報酬明細書を客体とした。

- (2) 歯科診療所は、第一次抽出単位を保険医療機関、第二次抽出単位を診療報酬明細書とする層化無作為二段抽出法によって抽出された診療報酬明細書（NDBに蓄積されているものを含む。）を客体とした。

ア 第一次抽出単位の保険医療機関は、「医療施設基本ファイル」（平成25年12月31日現在）をフレームとして抽出しており、その層化基準は、次のとおりである。

歯科診療所 地域（指定都市及び特別区・人口10万人以上の市・その他）、歯科医師数別

イ 調査における第一次及び第二次の抽出率は、下記「抽出率表」のとおりである。

【抽出率表】

	第一次抽出率 (保険医療機関)	第二次抽出率 (診療報酬明細書)
	協会けんぽ 組合健保 共済等 国保 後期高齢者医療	協会けんぽ 組合健保 共済等 国保 後期高齢者医療
歯科診療所	1/14	1/10

- (3) 保険医療機関及び保険薬局の集計客体数は、次のとおりである。

ア 医科診療

(単位：施設)

	総 数
総 数	84 104
医 科 病 院	8 437
精 神 科 病 院	1 061
特 定 機 能 病 院	86
DPC/PDPS対象病院	1 498
療養病床を有する病院	3 552
一 般 病 院	2 240
医 科 診 療 所	75 345
有 床 診 療 所	7 594
無 床 診 療 所	67 751

注：「総数」には、データ上で「医科病院」「医科診療所」別を取得できなかったものを含む。

イ 歯科診療

(単位：施設)

	総 数
総 数	5 484
病院併設歯科・歯科単科病院	1 286
歯 科 診 療 所	4 198

ウ 薬局調剤

(単位：施設)

	総 数
保 険 薬 局	53 287

(4) 明細書の集計客体数は、次のとおりである。

ア 内科診療

(単位：件)

	総 数	一 般 医 療	後 期 医 療
総 数	81 236 968	60 282 149	20 954 819
入 院	2 189 560	1 150 502	1 039 058
入 院 外	79 047 408	59 131 647	19 915 761

イ 歯科診療

(単位：件)

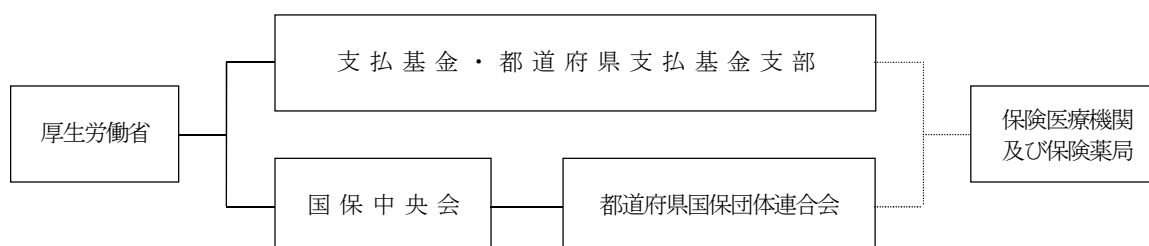
	総 数	一 般 医 療	後 期 医 療
総 数	716 459	549 029	167 430

ウ 薬局調剤

(単位：件)

	総 数	一 般 医 療	後 期 医 療
総 数	50 131 420	36 669 825	13 461 595

(5) 調査の系統は、次のとおりである。



4 調査の時期

平成26年6月審査分

5 調査の事項

診療報酬明細書 …… 年齢、傷病名、診療実日数、診療行為別点数・回数及び薬剤の使用状況
(薬品名・使用量等) 等

調剤報酬明細書 …… 年齢、処方せん受付回数、調剤行為別点数・回数及び薬剤の使用状況
(薬品名・使用量等) 等

6 集計方法

集計は、厚生労働省大臣官房統計情報部で行った。

7 結果の推計と標準誤差率

(1) 推計方法

ア 診療行為分

- ① 平成 26 年では「3 調査の客体及び系統」の(1)及び(2)により、調査の客体を設定しているため、以下の方法により総点数、総件数、1 件当たり点数を推計した。
- ② 推計式において、医科病院、医科診療所及び歯科病院の場合は、 $m_i = M_i$ 、 $n_{ij} = N_{ij}$ 、 $R1_i = 1$ 、 $R2_{ij} = 1$ とすること。
- ③ 全薬剤点数、全薬剤件数、1 件当たり全薬剤点数についても上記①及び②と同様の方法により推計した。この場合は、推計式の総点数、総件数、1 件当たり点数を、それぞれ全薬剤点数、全薬剤件数、1 件当たり全薬剤点数と置き換えること。

$$\begin{aligned} \text{総点数} \quad \hat{T} &= \sum_{i=1}^L \frac{M_i}{m_i} \sum_{j=1}^{m_i} \frac{N_{ij}}{n_{ij}} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} = \sum_{i=1}^L R1_i \sum_{j=1}^{m_i} R2_{ij} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} \\ \text{総件数} \quad \hat{N} &= \sum_{i=1}^L \frac{M_i}{m_i} \sum_{j=1}^{m_i} \frac{N_{ij}}{n_{ij}} \sum_{k=1}^{n_{ij}} y_{ijk} = \sum_{i=1}^L R1_i \sum_{j=1}^{m_i} R2_{ij} n_{ij} \\ \text{1 件当たり点数} \quad \hat{R} &= \frac{\hat{T}}{\hat{N}} \end{aligned}$$

標準誤差は、以下の方法により計算した。

$$\begin{aligned} \text{総点数の標準誤差} \quad C_{\hat{T}} &= \sqrt{V(\hat{T})} \\ V(\hat{T}) &= \sum_{i=1}^L \left\{ M_i (M_i - m_i) \frac{(S_i^T)^2}{m_i} + \frac{M_i}{m_i} \sum_{j=1}^{m_i} N_{ij} (N_{ij} - n_{ij}) \frac{(S_{ij}^x)^2}{n_{ij}} \right\} \\ &= \sum_{i=1}^L \left\{ m_i R1_i (R1_i - 1) (S_i^T)^2 + R1_i \sum_{j=1}^{m_i} n_{ij} R2_{ij} (R2_{ij} - 1) (S_{ij}^x)^2 \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{総件数の標準誤差} \quad C_{\hat{N}} &= \sqrt{V(\hat{N})} \\ V(\hat{N}) &= \sum_{i=1}^L \left\{ M_i (M_i - m_i) \frac{(S_i^N)^2}{m_i} + \frac{M_i}{m_i} \sum_{j=1}^{m_i} N_{ij} (N_{ij} - n_{ij}) \frac{(S_{ij}^y)^2}{n_{ij}} \right\} \\ &= \sum_{i=1}^L \left\{ m_i R1_i (R1_i - 1) (S_i^N)^2 \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{1 件当たり点数の標準誤差} \quad C_{\hat{R}} &= \sqrt{V(\hat{R})} \\ V(\hat{R}) &= \frac{1}{\hat{N}^2} \sum_{i=1}^L \left\{ \frac{M_i (M_i - m_i)}{m_i} \left((S_i^T)^2 - 2\hat{R} \text{Cov}(\hat{T}_{ij}, N_{ij}) + \hat{R}^2 (S_i^N)^2 \right) \right. \\ &\quad \left. + \frac{M_i}{m_i} \sum_{j=1}^{m_i} \frac{N_{ij} (N_{ij} - n_{ij})}{n_{ij}} \left((S_{ij}^x)^2 - 2\hat{R} \text{Cov}(x_{ijk}, y_{ijk}) + \hat{R}^2 (S_{ij}^y)^2 \right) \right\} \\ &= \frac{1}{\hat{N}^2} \hat{N}^2 \hat{R}^2 \sum_{i=1}^L \left\{ m_i R1_i (R1_i - 1) \left(\frac{(S_i^T)^2}{\hat{T}^2} + \frac{(S_i^N)^2}{\hat{N}^2} - 2 \frac{\text{Cov}(\hat{T}_{ij}, N_{ij})}{\hat{T} \hat{N}} \right) \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
& + R1_i \sum_{j=1}^{m_i} n_{ij} R2_{ij} (R2_{ij} - 1) \left(\frac{(S_{ij}^x)^2}{\hat{T}^2} + \frac{(S_{ij}^y)^2}{\hat{N}^2} - 2 \frac{\text{Cov}(x_{ijk}, y_{ijk})}{\hat{T}\hat{N}} \right) \Bigg\} \\
& = \hat{R}^2 \sum_{i=1}^L \left\{ m_i R1_i (R1_i - 1) \left(\frac{(S_i^T)^2}{\hat{T}^2} + \frac{(S_i^N)^2}{\hat{N}^2} - 2 \frac{\text{Cov}(\hat{T}_{ij}, N_{ij})}{\hat{T}\hat{N}} \right) \right. \\
& \quad \left. + R1_i \sum_{j=1}^{m_i} n_{ij} R2_{ij} (R2_{ij} - 1) \frac{(S_{ij}^x)^2}{\hat{T}^2} \right\} \\
(S_i^T)^2 & = \frac{1}{m_i - 1} \sum_{j=1}^{m_i} (\hat{T}_{ij} - \hat{\bar{T}}_i)^2 = \frac{1}{m_i - 1} \sum_{j=1}^{m_i} \left(R2_{ij} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} \right)^2 - \frac{1}{m_i (m_i - 1)} \left(\sum_{j=1}^{m_i} R2_{ij} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} \right)^2 \\
\hat{T}_{ij} & = \frac{N_{ij}}{n_{ij}} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} = R2_{ij} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} \\
\hat{\bar{T}}_i & = \frac{1}{m_i} \sum_{j=1}^{m_i} \hat{T}_{ij} = \frac{1}{m_i} \sum_{j=1}^{m_i} R2_{ij} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} \\
(S_{ij}^x)^2 & = \frac{1}{n_{ij} - 1} \sum_{k=1}^{n_{ij}} (x_{ijk} - \bar{x}_{ij})^2 = \frac{1}{n_{ij} - 1} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk}^2 - \frac{1}{n_{ij} (n_{ij} - 1)} \left(\sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} \right)^2 \\
\bar{x}_{ij} & = \frac{1}{n_{ij}} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} \\
(S_i^N)^2 & = \frac{1}{m_i - 1} \sum_{j=1}^{m_i} (N_{ij} - \bar{N}_i)^2 = \frac{1}{m_i - 1} \sum_{j=1}^{m_i} (n_{ij} R2_{ij})^2 - \frac{1}{m_i (m_i - 1)} \left(\sum_{j=1}^{m_i} n_{ij} R2_{ij} \right)^2 \\
\bar{N}_i & = \frac{1}{m_i} \sum_{j=1}^{m_i} N_{ij} \\
(S_{ij}^y)^2 & = \frac{1}{n_{ij} - 1} \sum_{k=1}^{n_{ij}} (y_{ijk} - \bar{y}_{ij})^2 = \frac{1}{n_{ij} - 1} \sum_{k=1}^{n_{ij}} (1 - 1)^2 = 0 \\
\text{Cov}(\hat{T}_{ij}, N_{ij}) & = \frac{1}{m_i - 1} \sum_{j=1}^{m_i} (\hat{T}_{ij} - \hat{\bar{T}}_i) (N_{ij} - \bar{N}_i) = \frac{1}{m_i - 1} \sum_{j=1}^{m_i} \hat{T}_{ij} N_{ij} - \frac{m_i}{m_i - 1} \hat{\bar{T}}_i \bar{N}_i \\
& = \frac{1}{m_i - 1} \sum_{j=1}^{m_i} R2_{ij}^2 n_{ij} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} - \frac{1}{m_i (m_i - 1)} \left(\sum_{j=1}^{m_i} R2_{ij} \sum_{k=1}^{n_{ij}} x_{ijk} \right) \left(\sum_{j=1}^{m_i} n_{ij} R2_{ij} \right) \\
\text{Cov}(x_{ijk}, y_{ijk}) & = \frac{1}{n_{ij} - 1} \sum_{k=1}^{n_{ij}} (x_{ijk} - \bar{x}_{ij}) (y_{ijk} - \bar{y}_{ij}) = \frac{1}{n_{ij} - 1} \sum_{k=1}^{n_{ij}} (x_{ijk} - \bar{x}_{ij}) (1 - 1) = 0
\end{aligned}$$

L : 層数 y_{ijk} : $y_{ijk} = 1$ for $1 \leq i \leq L$, $1 \leq j \leq m_i$, $1 \leq k \leq n_{ij}$

$R1_i$: 第 i 層第 1 次抽出率逆数

(標本抽出時から調査時までの間の施設の
種類の変更等を考慮し、補整を加えている)

\hat{T}_{ij} : 第 i 層第 j 施設の総点数

$\hat{\bar{T}}_i$: 第 i 層の 1 施設当たりの平均総点数

$R2_{ij}$: 第 i 層第 j 施設第 2 次抽出率逆数	\bar{N}_i	: 第 i 層の 1 施設当たりの平均総件数
m_i	: 第 i 層標本施設数	\bar{x}_{ij}	: 第 i 層第 j 施設の 1 件当たりの平均点数
M_i	: 第 i 層母施設数 $M_i = m_i R1_i$	$(S_i^T)^2$: 第 i 層の施設ごとの総点数間の分散
n_{ij}	: 第 i 層第 j 施設標本件数(レセプト件数)	$(S_i^N)^2$: 第 i 層の施設ごとの総件数間の分散
N_{ij}	: 第 i 層第 j 施設母件数 (レセプト件数)	$(S_{ij}^x)^2$: 第 i 層第 j 施設の点数間の分散
	$N_{ij} = n_{ij} R2_{ij}$	$\text{Cov}(\hat{T}_{ij}, N_{ij})$: 第 i 層の施設ごとの総点数と総件数間の共分散
x_{ijk}	: 第 i 層第 j 施設第 k 件の点数		

イ 調剤行為分

調剤行為分の調査は、「3 調査の客体及び系統」の(1)により、調査の客体を設定しているため、「診療行為分」の医科病院、医科診療所及び歯科病院と同様の方法により集計した。ただし、1 件当たり全薬剤点数については、全薬剤点数を総件数で除して集計した。

(2) 標準誤差率

歯科診療所の診療報酬明細書は標本調査の手法を用いているため、推計値のもつ誤差のひとつとして、標本抽出に起因する標本誤差がある。標本誤差の大きさは、調査項目の種類によって異なるが、以下の表はそれらを「標準誤差率（推計値の大きさに対する標準誤差の百分率）」で示したものである。

推計値を中心としてその前後に標準誤差の 2 倍ずつの幅をとれば、その中に、全数調査から得られるはずの値が約 95%の確率で存在すると考えてよい。

歯科診療所の標準誤差率

(単位：%)

(平成 26 年 6 月審査分)

	総点数			総件数			1 件当たり点数		
	総数	一般医療	後期医療	総数	一般医療	後期医療	総数	一般医療	後期医療
歯科診療所	0.7	0.8	1.8	0.7	0.8	1.6	0.4	0.4	1.0